

持続可能な社会への取り組み

点検の不動産利活用

一般財団法人 日本不動産研究所

第28回

長崎県で唯一、海のない東彼杵郡波佐見町（ひがしそのぎぐんはさみちょう）は、山にあります。人口1万5000人ほどの小さな町で、約40年の歴史や伝統を持つ「やきもの里」である。

（佐世保市）、佐賀県の有田町などと共に「日本磁器のふるさと肥前」として文化庁が日本遺産に認定している。波佐見焼は豊臣秀吉による朝鮮出兵の後、1598（慶長3）年に大村藩主の大村喜前が朝鮮の陶工を連れ帰ったことが始まりと言われおり、その後、江戸時代後期には巨大登り窯による大量生産が行われた。波佐見町には全

世界でもまれに見る巨大登り窯群が存在していたことが判明している。

「やきものの里」の歴史が生きる 長崎県波佐見町



①中尾上登窯跡（写真中央）のあるエリア
②陶器まつりが開かれる「やきもの公園」

③西の原エリアの人気スポット

「波佐見町」の方言で大坂・京都市間の淀川を行き来する舟客に、「あん餅くらわんか、酒くらわんか」と掛け声を掛けながら、酒や食べ物を器に盛って売る商いが繁盛しており、そこで使われていた安い器がここでもまだ見えていたことが判明している。

製陶所を生かす

そんな窯業が盛んな波佐見町の中心部に、以前は窯元が嘗む製陶所であった趣（おもと）となっていました。平日でも

ショッピングなども集まり、女性客の絶えない人気スポットとなっています。平日でも

たくさんの観



とも推計されており、経済の縮小や地域コミュニティの希薄化が懸念され、一過性の観光地にとどまらない町の持続的なる発展を支えるための官民一体となった取り組みが期待される。

残念ながら、20年は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年ゴールデンウィークに合わせて開催される「波佐見陶器まつり」は中止となつたが、陶器はインターネットでも購入することができます。波佐見町の魅力をぜひ感じ取って、これから町の活動として注目されるが、まだ課題も多い。

60（令和42年）の町の人口は1万人を切って9467人にまで減少する（工藤健夫）。
01年（平成13年）に廃業後、90年放置されていたところ、山形（平成2）年に約30万人だった波佐見町の観光客は、17（平成29）年に初めて100万人の大台を超えるまでになつた。
地方都市における過疎化が進む中で、波佐見町は焼き物に代表される地域資源をうまくアピールし、地域活性化につなげることができた成功例として注目されるが、まだ課題も多い。

波佐見町の位置。西九州自動車道「波佐見・有田IC」から車で約15分。長崎自動車道「嬉野IC」から車で約15分。

県からやってきたある1人の陶芸家が工房を開設したのが、波佐見町の歴史を始めた。この工房で、多くの陶芸家が活動している。今では、工房を構え、友人を誘い、力を造った

波佐見町の歴史が生きる。長崎県波佐見町